

5月広報カレンダー

憲法記念日

- 3 木 ・こどもフェスティバル in SANO2012 [午前10時～:こどもの国]～5日
- ・鯉来まつり [午前10時～:根古屋森林公園]→4月1日号 P20

みどりの日

- 4 金 ・こどもフェスティバル in SANO2012 [午前10時～:こどもの国]～5日

こどもの日

- 5 土 ・家庭緑化用苗木の無料配布会 [午前10時～:こどもの国、栃本公園、嘉多山公園] →4月1日号 P19
- ・こどもフェスティバル in SANO2012 [午前10時～:こどもの国]

・くずうフェスタ2012

- 12 土 [午前9時30分～:葛の里壱番館駐車場]
- [午前10時～:葛生あくとプラザ周辺]
- ※花火大会 [午後7時30分～:葛生大橋北側]

・ばるぼーとマルシェ

- 19 土 [午前9時～:ばるぼーと、駅前交流広場]

・5月の茶会 [午前10時～:万葉の里・城山記念館]

20日

新庁舎の設計者が 決まりました

■問合せ 新庁舎建設課 ☎(20)3058

本市に最もふさわしい設計者を決めるため、佐野市新庁舎設計者選定審査委員会（委員長：内藤廣東京大学名誉教授）を設置し、公募型プロポーザル方式により、新庁舎設計に関する技術提案を求めました。

提出された技術提案を同委員会において、公正かつ適正に審査した結果、最優秀者として「佐藤総合計画・都市環境建築設計所特定設計業務共同企業体」を特定し、本市は新庁舎の設計に関する業務委託を契約しました。

今後は、市民の皆さんの意見を可能な限り取り入れながら、より良い庁舎となるよう、設計業務を進めてまいります。



市長へ報告書を提出する内藤委員長

第1回

「シリーズ 田中正造」

「没後100年を迎えて」

郷土の偉人である田中正造翁が亡くなり、平成25年には没後100年を迎えます。



市では、没後100年にあたり、さまざまな顕彰事業を推進し、正造翁の偉業を広め、永く後世に伝えることとしています。

今回から、1年間毎月15日号で正造翁の生涯や、さまざまな情報を発信していきます。

「田中正造の生涯」①

■正造の誕生と人間形成

正造は天保12年(1841)11月3日、下野国安蘇郡小中村(現・栃木県佐野市小中町)に、父富蔵25才、母サキ22才の長男として生まれました。4年後には妹リンも誕生しました。幼名は兼三郎と呼ばれました。正造生家の一室に産室と伝えられる部屋もあります。田中家は、祖父の時代より旗本六角家知行所小中村の名主で、正造まで代々続い



大正初期の生家

ていました。

田中家の農業経営規模、すなわち、田畑山林などは、正造が、「村中でやっと中等の財産に過ぎず」と話していたことと、現存する資料がほぼ一致し、その生家の質素なたたずまいを見ても理解できると思います。

■赤尾塾と正造の教育

正造の人間形成において両親の教育の関心の深さを見ることができま

す。赤尾小四郎(鷲州)は、もと備後福山藩阿部家に仕えた200石取りの儒家でした。正造の父は、教育のため、「一人扶持」(年間玄米約5俵)を謝礼にしているほどで、教育に対する父の厚い心がうかがえます。

母もまた、正造の性格が、人並み外れた、強情・わがまま・自己中心的性格であることを心配し、雨の日に正造が反省するまで戸外に放置したことがあります。「お前のように強情では困る。近所の者もお前の事を悪くいいます」との一言は、正造の胸にこたえたと自叙伝は伝えていきます。



正造が学んだ赤尾塾(阿弥陀堂)

(佐野市郷土博物館「田中正造」パンフレットより)

■問合せ 田中正造翁没後百年顕彰事業推進室 ☎(22)8832

